

こどもを対象とした写真表現 「こどもの色日記」

Photograph expression for children
"Color diary of the child"

細川晴未
指導教員 李盛姫

1) サレジオ工業高等専門学校 デザイン学科 ヴィジュアルコミュニケーション研究室

キーワード：こども、写真、観察力、色日記、絵本

1. はじめに

こどもに関するデータを調査するに当たって、こどもの発達段階ごとの特徴と重視すべき課題について調べた。幼児期は、周囲の人や物、自然などの環境とかかわり、全身で感じことにつながる体験を繰り返すことで、徐々に自分と違う他者の存在やその視点に気づきはじめていく時期であることがわかった。また、それらの体験が道徳性や社会性の原点を持つことになると言われている。

2. 研究目的

更に調べを進めた結果、自然体験を多くしてきた小中学生は、道徳観や正義感が身に付いていることが図1の文部科学省の調べにより分かった。

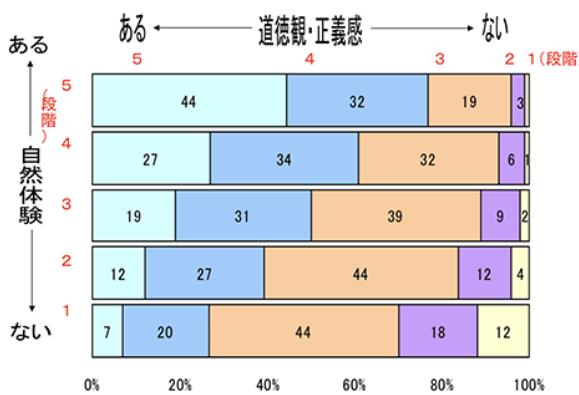


図1 自然体験と道徳観・正義感の関係

自然体験を十分に行わず、社会性を身につけることができないまま小学校に入学したこどもに「小1プロブレム」と呼ばれる問題が発生している。周りの児童との人間関係をうまく構築できず集団

生活に馴染めないこどもは年々減ってはいるものの、未だ解決されていないのが現状である。

3.1 観察調査



まず、実際にお隣に住む2歳の男の子と6歳の女の子の姉弟と公園で遊び、その時の行動や言動を同じ目線に立って観るとともに、その様子を撮影させてもらった。

外に出るとまず男の子が空を見あげて雲を指差し、女の子は咲いている花を見つけると近くにしゃがんで熱心に観察を始めていた。その顔は真剣そのもので、とてもいい表情を撮ることができた。その後お姉ちゃんの真似をするかのように弟が落ちている石を見つけ、手に取って観察していた。

その様子を見て、こどもは

- ・自然に対する飽きがない
- ・全てに興味をもつ
- ・何でも遊びに見える

という3つの特性があると考えた。またこれらはこどもの自然に対する好奇心からくるものであり、こどもが自然と関わる際には観察力が生み出される。「小1プロブレム」の解決に重視すべき課題としてあげられるのが、自然や美しいものに感動

する心などの育成である。自然と触れ合う時の子どもの「観察力」に焦点を当て、自然に対する観察力を伸ばせるような作品制作を目指す。

3. 2 事例調査

制作を進めていく上で「こども」という単語から、関わりの深い「ちいさなあなたへ」という絵本を調査した。この絵本には、母親から愛する「我が子」に送る心温まる言葉の数々と共に、優しい色味のイラストが描かれている。イラストを描いたピーター・レイノルズさんはベビーダイアリーも出版しており、数多くのベビーダイアリーの中でも人気を博している。人気な理由としては、

- ・イラストが満載で記入項目が多すぎない
- ・子供の記念日を絵本調に残せる
- ・見返した時に楽しい

などの点が上げられる。

4. コンセプトとターゲット

研究目的で取り上げた「小1プロブレム」を解決すべく、重視すべき課題である「自然や美しいものに感動する心などの育成」を踏まえ、子供の観察力を一冊の絵本にできる作品を提案する。また、こどもを対象とした写真表現というテーマを元に「子どもの色日記-瞬間の風景を描く」というコンセプトで制作を進める。ターゲットは、小学校に上がる前の未就学児で、色鉛筆などの文房具が使えるようになったこどもを対象とする。

5. 提案作品

私が提案する作品のイメージは図2のようなものである。



図2 提案作品イメージ

絵本調の日記に、こどもがその日触れ合った植物や、見た景色などを思い出し、瞬間の記録として色を自由に描いてもらうことで子どもの観察力を可視化する。思い出に残したいと思った色が日記として絵本調になっていることで見返した時の楽しさや、一生懸命描いたものが一つの作品としてまとまっている喜びが生まれ、更に観察を進めたいという意欲に繋がり、自然と関わる時間を増やす効果を狙っている。

ベビーダイアリーはイベントなどに関連したイラストがページごとに描かれているが、本作には挿絵のような形で、自然が作り出した一瞬を写す写真を配置する。写真はカラーではなく白黒で配置し、その日見たものの色を思い出しやすくする工夫をする。サイズは210×140mmを考えており、こどもが持ち運びやすいとされている絵本のサイズを見本とした。色を付ける手段に決まりはなく、こどもが使用したい画材で自由に塗って欲しいと考えているため、絵具などにも対応できるNTラシャを使用することを検討している。中綴じの製本作業も行う。絵本の構成は30日間の色を描けるページがあり、中間のページには通常のページの2倍の広さがあるロングページを作ることによって、より自由に見た色を描けるようにする。また、通常ページの余白に、色を塗る時のポイントを紹介するコーナーや、文字で日記を書けるスペースを用意し、日記を継続して付けようと思ってもらえるような工夫をする。

6. 今後の予定

今後は、今回提案した色日記を実際のターゲット層に使用してもらい、こどもが自然との関わりを持ち、小1プロブレムの解決に貢献できるのか研究を進める必要がある。

参考文献

- ・文部科学省 子供の育ちをめぐる現状等に関するデータ集
- ・ちいさなあなたへ 主婦の友社
- ・文部科学省 2009 子どもの発達段階ごとの特徴と重視すべき課題